

注意事項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 20 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例 1)、(例 2)及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を (例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。  
 なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の ④ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
			↓	
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	③
④	●

→

(例2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓			①		②	②	
102	①	②	●	④	⑤	③	→	●	④	
						④		⑤	⑤	
						⑤				

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓			①		②	②	
103	●	②	③	④	●	③	→	③	④	
						④		⑤	⑤	
						⑤		●		

(2) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：① ② %

- |   |   |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の⑨を②は①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	●
104	●	1	2	3	4	5	6	7	8	9
②										

答案用紙②の場合、

	104
①	②
0	●
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
●	9







- 1 女性ホルモン類似の作用がある植物由来の物質はどれか。
  1. イソフラボン
  2. ダイオキシシン
  3. 麦角アルカロイド
  4. ジエチルスチルベストロール
  
- 2 腔鏡診におけるクスコ式腔鏡の使用方で正しいのはどれか。
  1. 乾燥した状態で使用する。
  2. 腔鏡先端を使って腔口を開く。
  3. 挿入後は先端を開いて腔の最奥部まで進める。
  4. 腔壁全周の観察は、先端を開いた腔鏡を左右に回しながら行う。
  
- 3 精子に関する説明で正しいのはどれか。
  1. 精子の染色体数は46本である。
  2. 老年期には精子の形成はみられない。
  3. 1個の精母細胞から形成される精子は4個である。
  4. 精子の遺伝的多様性が形成されるのは第二減数分裂の過程である。
  
- 4 新生児の呼吸障害とその原因の組合せで正しいのはどれか。
  1. 無呼吸発作 ————— 肺水の吸収遅延
  2. 一過性多呼吸 ————— 化学性の肺炎
  3. 胎便吸引症候群 ————— 呼吸中枢の未熟性
  4. 呼吸窮迫症候群 ————— 肺表面活性物質の欠乏

5 子宮収縮抑制薬はどれか。

1. ヘパリン
2. ベタメタゾン
3. デキサメタゾン
4. 塩酸リトドリン

6 Aさん(28歳、初妊婦)。現在、妊娠18週で双胎。事務職で正規採用されて3か月経った。

Aさんへの保健指導で正しいのはどれか。

1. 「育児休業は1年間の申し出ができます」
2. 「産前休業は予定日前に16週間取得できます」
3. 「妊婦健康診査受診に必要な時間には、医療機関への往復時間を含みます」
4. 「出産手当金は、出産日以前42日から出産日後より56日まで支給されます」

7 32歳、初産婦。妊娠38週5日。妊婦健康診査時、「昨夜10分ごとの陣痛が3時間続いた。朝6時にお腹の張りで目が覚めた。2時間前から10～12分ごとに収縮している」と言う。内診所見は、子宮口2cm開大、展退度80%、Station -3、子宮頸管の硬度は軟、子宮口の位置は中央であった。膣分泌物は白色である。

この時の助産診断で正しいのはどれか。

1. 産徴がある。
2. 前駆陣痛である。
3. 原発性微弱陣痛である。
4. 子宮頸管は成熟している。



8 会陰切開術の正中側切開法と正中切開法との比較で、正中側切開法の特徴として正しいのはどれか。

1. 会陰拡張効果が大きい。
2. 創部からの出血が少ない。
3. 肛門括約筋の損傷が少ない。
4. 創部縫合不全が発生する頻度は少ない。

9 早産児の退院後のフォローアップ外来で、修正月齢よりも暦月齢に基づいて判断するのはどれか。

1. 運動発達の評価
2. 言語発達の評価
3. 身体発育の評価
4. B型肝炎ワクチンの接種時期

10 家族発達理論における家族周期段階別にみた基本的発達課題で、第1子出生後の育児開始期にある家族の課題はどれか。

1. 職業生活に適応する。
2. 生活領域拡大に適応する。
3. 増大する家庭内役割を引き受ける。
4. 子どもの心理的分離に伴う不安に親として対応する。

11 セルフヘルプグループ活動に該当するのはどれか。

1. 祖父母を対象とした出産準備教室
2. 出産経験者が運営に協力する母親教室
3. 助産師による乳房マッサージの講習会
4. ペリネイタルロス〈Perinatal Loss〉を経験した母親の会

12 助産所および院内助産の分娩において、助産師と産婦人科医師との協働管理をするのが望ましい対象者の要件に該当するのはどれか。

1. 年齢 30 歳
2. 身長 155 cm
3. 妊娠前 BMI 22
4. 前回妊娠 35 週の早産

13 A さん(26 歳、初妊婦)。留学生。妊娠 9 週。来日 2 年目。A さんのパートナーも留学生で、2 人ともアルバイトをしながら学業を継続している。日本での出産を希望している。出産費用が心配になり、助産師に相談してきた。

A さんが出産育児一時金を支給されるための条件はどれか。

1. 自国の大使館に妊娠届を提出していること
2. 日本の公的医療保険に加入していること
3. 母子健康手帳を交付されていること
4. 日本で婚姻届けを提出していること

14 肥満が疾患発症のリスク因子となるのはどれか。

1. 胞状奇胎
2. 卵管妊娠
3. 子宮腺筋症
4. 子宮内膜癌
5. 成熟嚢胞性奇形腫

15 女性において肝周囲炎をきたすのはどれか。

1. 放線菌
2. カンジダ属
3. 性器クラミジア
4. B群溶血性レンサ球菌
5. ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉

16 Rh式血液型不適合妊娠で胎児水腫が認められた。

この時、D抗原に対して産生される免疫グロブリンはどれか。

1. IgA
2. IgD
3. IgE
4. IgG
5. IgM

17 受精卵(胚)で正しいのはどれか。

1. 受精後さらに2回の減数分裂が行われる。
2. 受精後2日に前核が形成される。
3. 前核が融合したものを桑実胚という。
4. 受精後3日に胚盤胞へと変化する。
5. 胚盤胞の状態で子宮内膜に着床する。

18 母体由来の細胞を主体として構成されているのはどれか。

1. 羊 膜
2. 臍 帯
3. 絨 毛
4. 脱落膜
5. 羊水浮遊細胞

19 30歳代の女性で行われた場合に、その後に骨粗鬆症のリスクが高まるのはどれか。

1. 子宮筋腫の核出
2. 両側付属器の切除
3. 薬剤を用いた排卵誘発
4. 低用量ピルによる避妊
5. 尖圭コンジローマの焼灼治療

20 妊婦の状態とそれに関連して生じやすい新生児への影響の組合せで正しいのはどれか。

1. 喫煙習慣 ————— 巨大児
2. 血小板減少 ————— 黄 疸
3. 不規則抗体陽性 ————— 多血症
4. 妊娠高血圧腎症 ————— 低出生体重児
5. ビタミン B<sub>1</sub> 欠乏 ————— 18 トリソミー

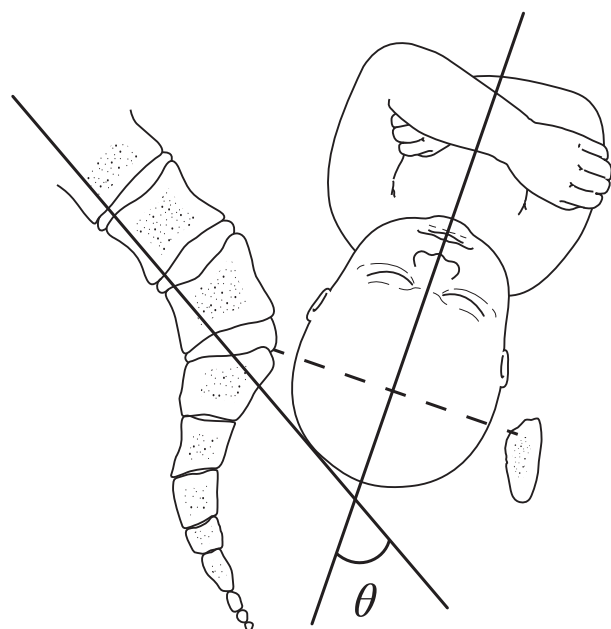
21 Aさん(29歳、初妊婦)。現在、妊娠38週2日。「赤ちゃんの動きが少ないような気がする」と言って外来を受診した。検査の結果を表に示す。

観察項目	結果
呼吸様運動	30分間に30秒以上続く運動3回あり
胎動	30分間に胎動3回あり
筋緊張	30分間に体幹の伸展3回と手を開閉する動きあり
羊水量	羊水ポケット1.0cm
NST	20分間で胎動に伴う一過性頻脈3回あり

AさんのBiophysical Profile Score(BPS)の点数はどれか。

1. 0点
2. 2点
3. 4点
4. 8点
5. 10点

22 母体の骨盤と胎児の位置関係を模式図に示す。



整形外科的合併症のない正常産婦で、胎児の軸と母体の脊椎のなす角度( $\theta$ )が大きく、母体の仙骨の可動域の制限が少なく、骨盤出口部が広がりやすい分娩体位は( )である。

( )に当てはまるのはどれか。

1. 仰臥位
2. 膝肘位
3. 側臥位
4. 蹲踞位
5. 半坐位

23 新生児マススクリーニング検査で、後日、2回目の採血が必要なのはどれか。

1. 過期産児
2. 人工栄養児
3. 哺乳不良の児
4. 光線療法中の児
5. 新生児仮死で出生した児

24 新生児の神経系の診察で、反射を誘発している場面を図に示す。



この反射はどれか。

1. 歩行反射
2. 交差伸展反射
3. 足底把握反射
4. 引き起こし反射
5. Landau〈ランドー〉反射

25 新生児が百日咳に罹患した場合、重症度を評価するために観察すべき臨床症状はどれか。

1. 嘔吐
2. 咳嗽
3. 下痢
4. 心雑音
5. 無呼吸

26 日本の人口動態統計調査における周産期死亡率を求める式を示す。

$$\text{周産期死亡率} = \frac{A}{B} \times 1,000$$

A = 年間の妊娠満 22 週以後の死産数  
+ 年間の早期新生児死亡数(生後 1 週未満の早期新生児死亡数)

B = ( ) + 年間の妊娠満 22 週以後の死産数

( )に入るのはどれか。

1. 妊娠満 12 週以後 22 週未満の死産数
2. 人工妊娠中絶数
3. 新生児死亡数
4. 年間出生数
5. 年間出産数



27 有床助産所で分娩の安全管理のために使用するもので、最も優先度が高いのはどれか。

1. 分娩監視装置
2. 携帯用保育器
3. 超音波断層装置
4. 血液ガス分析測定器
5. 識別用ネームバンド

28 閉経以降の女性に生じる身体変化の特徴で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 骨吸収は減少する。
2. 中性脂肪は上昇する。
3. 1型糖尿病が増加する。
4. LDL コレステロールは低下する。
5. HDL コレステロールは低下する。

29 卵巣過剰刺激症候群が重症化した場合に注意する合併症はどれか。2つ選べ。

1. 胸水
2. 血栓症
3. 高血圧症
4. 腎盂腎炎
5. 甲状腺機能低下症

30 妊娠後期における母体の変化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 子宮峡部は長くなる。
2. 子宮頸部の強度は増す。
3. 子宮胎盤血流量は増加する。
4. 膣前庭は仙骨側に圧排される。
5. Braxton-Hicks〈ブラックストン・ヒックス〉収縮は前駆陣痛が出現すると消失する。

31 Aさん(17歳、女子)。11歳で初経が発来して以降、28日型の順調な月経周期であったが、4か月前から無月経となったため、思春期外来を受診した。Aさんには性交渉の経験はない。頭痛や視野異常の訴えはない。

助産師が行う対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 有酸素運動を勧める。
2. 体重の変動について聞く。
3. 精神的ストレスの程度を確認する。
4. 直ちに低用量ピルの内服を勧める。
5. 基礎体温は朝トイレに行ってから測定するよう説明する。

32 Aさん(32歳、初妊婦)。身長154cm。体重56kg(非妊時体重53kg、BMI22)。既往歴は特記すべきことはない。職業は会社員で、デスクワークが主である。現在妊娠22週で異常所見は認められない。助産師は、Aさんに食事バランスガイドを用いて、非妊時と比較した1日分の付加量について説明することになった。

説明する内容で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 「主食はおにぎり1個分増やしましょう」
2. 「主菜は卵1個分増やしましょう」
3. 「副菜は増やす必要はありません」
4. 「牛乳・乳製品は牛乳コップ1杯分増やしましょう」
5. 「果物はりんご半個分増やしましょう」

33 子宮口全開大で、努責感を感じている初産婦。仰臥位で陣痛発作時に時々児頭が陰裂から少し見える状況になってきた。

陣痛発作時の産婦に対し、分娩を進行させる効果的な声かけで適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「上半身を起こしますよ」
2. 「天井を見ていきみましょう」
3. 「ハッ、ハッ、ハッ、ですよ」
4. 「フーウン、フーウン、ですよ」
5. 「息の続くかぎり長くいきんでください」

34 子宮内反症で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 膀胱に尿がたまった状態で用手的整復を試みる。
2. 子宮底輪状マッサージが誘因となる。
3. 経産婦に比べて初産婦の発症が多い。
4. 子宮底は著しく上昇する。
5. 大量出血が起きる。

35 死産に関わる届出で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 死産届は24時間以内に提出する。
2. 死産届は死産のあった場所の都道府県知事に提出する。
3. 死産の分娩に立ち会った場合は死胎検案書を作成する。
4. 死産児を検案して異常を認めた場合は、所轄警察署に届け出る。
5. 提供した医療に起因する予期しなかった死産は医療事故調査・支援センターに届け出る。

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

A さん(33 歳、初妊婦)。既往歴や生活歴に特記すべきことはなかったが、妊娠 28 週頃から高血圧を指摘され、内服薬による治療を受けている。妊娠 39 週 5 日、経膈分娩で男児を出産した。

児の Apgar〈アップガー〉スコアは 1 分後 8 点、5 分後 9 点。

児の身体所見：身長 49.2 cm(50 パーセントイル)

体重 2,515 g(3 パーセントイル)

頭囲 33.3 cm(50 パーセントイル)

36 児の管理をするにあたり、注意すべき合併症はどれか。

1. 高血糖
2. 多血症
3. 顔面神経麻痺
4. 呼吸窮迫症候群
5. 高カルシウム血症

37 日齢 2。児の体重は 2,410 g で、前日から 30 g 減少している。児は完全母乳栄養で約 1～2 時間ごとに哺乳している。児の哺乳力は良好だが、左右の乳房を 10 分程度哺乳すると眠ってしまい、A さんは眠った児をそのままコットに寝かせている。児には軽度の腹部膨満が認められる。排便は出生後 5 回、粘稠性の強い濃緑色の便が認められる。朝、ヨーグルト状の凝乳塊を含む白色物の嘔吐が認められた。

助産師の A さんへの指導で正しいのはどれか。

1. 人工乳の追加
2. 哺乳後の排気
3. 3 時間ごとの定時授乳
4. A さんの乳製品の摂取制限

38 日齢4。児の体重は2,490 gで、前日から35 g増加している。排尿10回/日、排便5回/日、哺乳回数12回/日、哺乳力は良好だが、1日数回の嘔吐が認められる。経皮的黄疸計値9.5。自動聴性脳幹反応〈AABR〉は両耳とも「パス(反応あり)」であった。

Aさんからの児に関する訴えで、最も注意すべきなのはどれか。

1. 「視線が合わない」
2. 「黄色いうんちが出た」
3. 「黄緑色のものを吐いた」
4. 「白眼が黄色くなってきた」
5. 「声をかけても反応してくれない」

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

妊婦とパートナーが出産を迎える意欲を高めることを目的として、病院に勤務する助産師が両親学級を開催することとなった。計画の概要を表に示す。

対 象	妊娠 30 週以降の妊婦とそのパートナー 6 組以内
時 間	80 分
内 容	① 分娩経過の講義 ② 産痛緩和法(腰部マッサージ)の体験 ③ 分娩室の見学 ④ バースプランについての話し合い(参加者全体のグループワーク)
スタッフ	助産師 2 名
準備物	名 札 分娩経過図(教材) 産痛緩和法を示したパンフレット(配布用) 参加者アンケート

39 この両親学級の開催で適切なのはどれか。

1. 開催日時は平日の日中とする。
2. 母子健康手帳は持参しなくて良いと伝える。
3. バースプランは事前に用紙に書いてくるよう伝える。
4. 分娩経過の講義は妊婦とパートナーを分けて実施する。



40 助産師は計画に従って両親学級を開催した。産痛緩和法の講義と演習で、分娩第1期の産痛緩和法として腰部マッサージの方法を紹介した。助産師は、パートナーに対して、妊婦の背側に座り、手を温めて妊婦の腰部に触れ、妊婦の呼吸に合わせて円を描くように手を動かすよう指導した。実施後、助産師は妊婦とパートナーが記載したアンケートを見て両親学級の効果を評価することにした。

妊婦とパートナーが出産を迎えるための意欲が高まったと評価できる記載はどれか。

1. 立ち会い出産は大変だと感じた。
2. 実母の立ち会いについて2人で話し合います。
3. 産痛緩和のマッサージは助産師にしてほしい。
4. お腹が張りそうだからマッサージは心配です。
5. 自宅でも2人でマッサージの練習をしてみたい。

41 両親学級の終了後、Aさん(29歳、初妊婦)とAさんのパートナーが助産師に話しかけてきた。Aさんは現在妊娠31週で、前回の妊婦健康診査では骨盤位であったという。

Aさん：「今日は分娩室を見てここで産みたいと思いました。来て良かったです」

パートナー：「今日は経膈分娩の話ばかりだったけど、逆子のまま帝王切開になったらどうしよう」

Aさんとパートナーの言葉を聞いた後の助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 胎児外回転術を勧める。
2. 骨盤位の経膈分娩方法を説明する。
3. 帝王切開術の説明を希望するかを確認する。
4. まだ週数が早いので、帝王切開術を心配する必要はないと説明する。

次の文を読み 42、43 の問いに答えよ。

A さん(48 歳、女性)。夫と 28 歳の長女との 3 人暮らしで、出版社に勤務している。不正出血を主訴として婦人科の診療所を受診した。既往歴に特記すべきことはない。月経周期は順調であったが、6 か月前から月経がなく、少量の出血が時々みられる。身長 150 cm、体重 48 kg(半年前より変化なし)。婦人科診察では子宮および付属器に異常は認められなかった。

A さんは最近体調に不安を感じており、助産師に「会議中などに突然暑くなって汗をかき、動悸がして困ることがあります。物忘れも増え、何をするにもおっくうです。夫は仕事中心で、私の話を聞いてくれません。娘がまもなく結婚して独立するので、その準備であわただしい毎日でした。この先、夫と 2 人きりになるかと思うと憂うつです」と相談があった。

42 A さんに対するアセスメントで適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 若年性認知症が疑われる。
2. 急性ストレス障害が疑われる。
3. 視床下部性無月経が疑われる。
4. 血管運動神経性障害を認める。
5. 家族の発達課題がストレスの原因になっている。

43 その後 A さんは、医師からホルモン補充療法を勧められたが「薬には頼りたくない」と言い、希望しなかった。「職場の仲間は、私ほどつらそうではない。娘の結婚と引っ越しが終わり、心にぽっかり穴があいたままで家事や仕事をする気力がありません。私 1 人が周りに迷惑ばかりかけている」と沈んでいる。

助産師の A さんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 田中・ビネー式知能検査を行う。
2. 自己イメージのゆがみを修正する。
3. 夫と過ごす時間を増やすよう指導する。
4. ストレスマネジメントについて指導する。

次の文を読み 44、45 の問いに答えよ。

A ちゃん(生後 8 か月、男児)。小児神経専門医から重度の脳性麻痺(痙性四肢麻痺)と診断された。

〔周産期歴〕

A ちゃんの母親は 34 歳の経産婦。妊娠 18 週まで喫煙していた。妊婦健康診査では直前まで特に異常は指摘されていなかったが、妊娠 37 週 3 日に「6 時間ほど前から痛みを感じ自宅で様子を見ていたが、我慢できなくなった」と電話があり、助産師は来院を指示した。来院時、胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数 60 bpm の遷延一過性徐脈を認め、常位胎盤早期剥離の診断で緊急帝王切開術が行われた。A ちゃんは出生体重 2,860 g、Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後 2 点、5 分後 5 点で、蘇生後 NICU に入院し、日齢 35 に退院した。

44 A ちゃんの脳性麻痺の原因で可能性が高いのはどれか。

1. 核黄疸
2. 母の喫煙
3. 上衣下出血
4. 脳室周囲白質軟化症
5. 低酸素性虚血性脳症

45 産科医療補償制度の手続きのため、分娩した病院に来院した A ちゃんの母親から助産師に「この制度について教えて下さい」と質問があった。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 「この制度では原因分析はしません」
2. 「分析結果は一般に公開されません」
3. 「分析報告書は保護者に直接送付されます」
4. 「原因分析の結果は小児神経専門医から伝えられます」

次の文を読み 46、47 の問いに答えよ。

A さん(42 歳、初産婦)。約 8 年の不妊治療後に体外受精で妊娠。妊娠経過は順調で骨盤位のため帝王切開術による出産となった。児は正常新生児で、A さんの産褥経過は問題なく、予定通り産褥 7 日に退院した。本日、産褥 14 日、母乳外来に来院した。児の健康状態は良好、体重増加は 45 g/日。A さんは「母乳が足りているかわからなくて、1 回 60 mL のミルクを 1 日 4、5 回足しているのですが、この子は泣いてばかりで、私は全然眠れないです」と暗い表情で話した。

46 この時の助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 産後うつ病であると伝える。
2. ミルクの量が適切ではないと指導する。
3. 母乳分泌を促すマッサージを指導する。
4. 自宅での児との生活について話してもらう。

47 母乳外来受診から 1 週後、A さんは、産後の 1 か月健診に児を連れて夫とともに来院した。産後の経過は順調である。児については「以前より寝てくれるようになったけど、泣くといらいらしてしまう。夫は、仕事が忙しくて帰りが遅い」と言う。エジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)は 4 点であった。1 日 7、8 回直接授乳しておりミルクを毎回足している。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 精神科への受診を勧める。
2. 地域の育児支援情報を提供する。
3. 育児はうまくいっていると励ます。
4. 虐待の疑いがあることを児童相談所に連絡する。

次の文を読み 48、49 の問いに答えよ。

A さん(35 歳、経妊婦)。妊娠 8 週。身長 158 cm、体重 49 kg(非妊時体重 52 kg)。妊婦健康診査を受診した。妊婦健康診査で、体温 37.5℃、血圧 92/64 mmHg、尿蛋白(－)、尿糖(－)、尿ケトン体 2＋。2 週前から嘔気が出現し、1 週間から一日中嘔吐が続いており、水分は一口程度であれば摂取できるが、食事はほとんど摂取できていない状況である。A さんは、「前回の妊娠の時と違って、こんなに吐いてばかりで赤ちゃんは大丈夫でしょうか。不安です」と話している。

48 この時点のアセスメントで正しいのはどれか。

1. うつ状態である。
2. 経過は順調である。
3. 輸液療法が必要である。
4. 自然に治まる症状である。

49 A さんは妊娠 12 週で、妊婦健康診査を受診した。体重 50.0 kg、血圧 94/60 mmHg、尿蛋白(－)、尿糖(－)、尿ケトン体(±)。嘔吐は軽減してきたが嘔気は持続している。「1 日 3 食頑張っって食べようと努力していますが、ご飯を一口食べると吐いてしまいます。どうすれば食べられるようになるでしょうか」と話している。

助産師が行う食事指導で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 「食べられるときに好きなものを食べましょう」
2. 「1 日 2,000 kcal を目標に食べましょう」
3. 「水分を摂るように心がけましょう」
4. 「お腹が空いてから食べましょう」
5. 「外食は避けましょう」

次の文を読み 50、51 の問いに答えよ。

A さん(32 歳、初産婦)。病院の産婦人科で、妊婦健康診査を受けていた。合併症はなく、妊娠経過および胎児の発育は順調であった。既往歴に特記すべきことはない。妊娠 40 週 3 日、自宅で陣痛発来および破水を認めたため、産婦人科病棟に入院した。胎児推定体重は 3,400 g。羊水混濁は認めない。子宮口が全開大後、胎児心拍数陣痛図にて高度遅発一過性徐脈を認めたため、吸引分娩による急速遂娩を行うこととなった。

50 新生児蘇生法ガイドライン 2015 に基づく児の蘇生の準備で適切なのはどれか。

1. 吸引器の陰圧を 20 kPa に設定する。
2. 6 Fr の吸引カテーテルを準備する。
3. 内径 4.5 mm の気管チューブを準備する。
4. 人工呼吸用ブレンダーの酸素濃度を 21 % に設定する。
5. T ピース蘇生装置の呼気終末陽圧(PEEP)を 8 cmH<sub>2</sub>O に設定する。

51 出生した児は男児で出生体重 3,650 g。Apgar(アプガー)スコアは 1 分後 8 点、5 分後 9 点。出生後 2 時間、児の診察を行ったところ、全身状態は良好だが、左側頭部から耳朶にかけて膨隆を認めた。膨隆は波動を触れて軟らかく、冠状縫合を超えて隆起していた。

今後の児の継続観察で注意する所見はどれか。

1. 頭囲拡大
2. 早発黄疸
3. 胆汁性嘔吐
4. チアノーゼ
5. 顔面神経麻痺

次の文を読み 52、53 の問いに答えよ。

A さん(23 歳、初妊婦)。妊娠 16 週。1 人暮らしでパートナーとは未入籍である。昨年度はアルバイトで年収は約 180 万円であったが、4 か月前から運送会社の正社員として宅配便の配送ドライバーとして働いている。A さんは「妊娠したことはうれしい」と言い、妊婦健康診査は適切な間隔で受診している。今回の妊婦健康診査で、経過は順調であると確認された。A さんは「体調は良いですが、重い荷物を運ぶのが不安になってきました」という。

52 助産師が A さんに優先して確認する必要があるのはどれか。

1. 産前産後休業取得の予定
2. パートナーとの入籍予定
3. 地区担当保健師との関わり
4. 雇用者への配置換えの申請状況



53 妊娠 30 週。血圧 150/95 mmHg、尿蛋白+、胎児推定体重は 1,650 g。入院して治療をすることになった。パートナーとの入籍や同居の予定は未定である。A さんから、入院費の支払いに不安があると助産師に申し出があった。このため、地区担当保健師に相談したところ、療養援護の助成を受けられることになった。

A さんが療養援護の助成を受けられることになった理由はどれか。2 つ選べ。

1. 昨年度の年収額
2. 胎児発育不全〈FGR〉
3. 妊娠高血圧症候群
4. 1 人暮らし
5. 未入籍

次の文を読み 54、55 の問いに答えよ。

開院して1年の産婦人科クリニック。分娩数は月20件である。今まで夜間に分娩が重なることはなかった。ある日の夜勤は、分娩担当の助産師 A と褥婦担当の看護師の2名で勤務をしていた。陣痛室には分娩進行中の初産婦1名と経産婦1名がいた。初産婦が3日間便秘であったため助産師 A は浣腸を施行した。2名の産婦は順調に分娩が進行し、児の娩出時間はほぼ同時になった。初産婦の分娩は産科医が看護師と対応したので、助産師 A は1人で経産婦の分娩を介助し、児の臍帯切断を行った。看護師は両方の新生児への対応を行った。産科医は両方の産婦と新生児の健康状態に問題がないことを確認した。助産師 A は分娩介助の翌日から外来勤務だったため、分娩3日後に助産録の記載をした。

54 保健師助産師看護師法に規定される助産師の業務を踏まえ、助産師 A の勤務内容で改善が求められる行為はどれか。

1. 初産婦に浣腸をしたこと
2. 医師の立ち合いなしに分娩介助をしたこと
3. 医師の立ち合いなしに臍帯切断をしたこと
4. 助産録の記載を分娩3日後に行ったこと

55 初産婦は退院時に「お産の時、スタッフが忙しそうでナースコールを鳴らしてもすぐに来てもらえなかった」とスタッフに伝えた。

今回の経過を踏まえた院内の取組みで、最も優先されるのはどれか。

1. 分娩が安全に遂行できる業務手順を作成する。
2. 助産師間で助産実践能力を相互評価する。
3. 接遇に関する研修を実施する。
4. 退院時アンケートを実施する。









